

No.2548

三 草 山

日 時 : 2月18日(土) 曇り
参 加 : 高石(L)、榭谷、嶋原、佐々木、右田、岡本(記)

三草山、調べてみると標高564m、聞いたことも無い山だったので参加することにした。一人家から走ってくる人がいるということで、集合地は杉生から森上バス停に変更。阪急梅田に集合し、川西能勢口で乗換え、能勢電鉄「山下」駅に着くまでどこを歩くかで議論白熱。森上に着き、取りあえず皆勝手に前に見える里山、三草山を目指す。少し町中を歩き田園の広がる道を行くと、「三草山」という標識がありそこから農道に入る。



寒さもさほど厳しくない、のんびりとした山里風景の奥に、日本棚田百選の「長谷の棚田」が見える。言っちゃ申し訳ないが、特段変哲の無い棚田だが、これも、この種の棚田の相当部分が耕作放棄地になってしまった所為なのかもしれない。

そんなことを思いながらのんびりと、ではなく、かなり早足で歩いていると、綺麗に手入れされた里山に「三草山」の標識と案内板があり、森の妖精「ゼフィルス(蝶の一種)」の山、と書かれている。荒れた里山の多い中、何となく、落ち着いた、安らぎが感じられる場所だ。少し休んで山頂を目指す。



折角の妖精の漂う山道を、誰かがぱっぱ、ぱっぱと歩くので、あっという間に登り切る。山頂は広くて見晴らしの良い、これも



また雰囲気の良いところだが、まだ、午前11時頃ではあるが、景色を楽しむ間もなく食べ物を広げ、誰もいないことを良いことに、小宴会のような昼時を過ごす。1時間余り楽しんでいると人が来て、それを潮時に出発準備に掛かる。厚かましく、記念写真を撮ってもらい、出発。



最初からスケジュールのはっきりしない山行であったが、結局ここから「日生中央」駅まで歩くことになった。少し行くと道



がはっきりしなくなり、荒れて途切れ途切れになっている木の搬出道や、尾根を方向頼りに進む。1時間半あまり、プーイングの中、漸く車道に出る。そこから、「日生中央」まで約1時間

20分、アスファルトの車道に行く。駅に着く頃には、里山のことも忘れ、打ち上げ場所を探す。リーダーの高石さん、本当にご苦労様でした。